

児童ホーム 自己評価 (令和6年度)

※評価記入欄

A (できている)、 B (ほぼできている)、 C (あまりできていない)、
D (全くできていない)、 該当しない場合は「－」

評価項目			評価 (A～D) 記入欄	評価の理由や取組内容等
施設 設備及 び	(1)	室内のレイアウトや装飾、採光等にも配慮し、児童が心地よく過ごせるように工夫されている。	A	季節感のある壁面装飾を実施した。 温度計を用いて室温・湿度に気を配り、常時換気をすることで児童が心地よく過ごせるよう工夫した。
育成 支援の 内容	(1)	児童の出欠席について保護者からの連絡を確認するとともに、連絡なく欠席したり来所が遅れていたたりする児童については、速やかに状況を確認し適切に対応している。	A	日常的に出欠の確認を徹底している。 連絡なく欠席した場合、速やかに学校、保護者に状況を確認し、確認がとれない場合は近隣の捜索を行うなどの対応を実施している。
	(2)	児童が安心できるように迎え入れ、児童一人ひとりの心身の状態を把握し、適切に援助している。	A	登所時に児童の表情を見ながら児童一人ひとりの心身の状態確認を行っている。
	(3)	遊びや生活の場面における児童の状況や体調、情緒等を把握し、静養や気分転換が必要などときには適切に対応している。	A	児童へ無理強いせず、児童の心情に寄り添った対応を行っている。
	(4)	児童全体に共通する生活時間の区切りをつくり、柔軟に活用して児童が放課後の時間を自己管理できるよう援助している。	A	毎日のスケジュールを定めることで生活時間の区切りをつくり、読書の時間に児童の自発的な活動を認めることで、放課後の時間の自己管理を支援している。
	(5)	児童ホームでの生活を通して、日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるようにするとともに、児童が集団で一緒に過ごす上で求められる協力及び分担や決まりごと等を理解できるように支援している。	A	日ごろから生活習慣を守るよう声掛けを実施している。 当番制を設けることにより、集団生活での役割分担や決まりごとを理解できるように支援している。
	(6)	年齢や発達状況が異なる児童と一緒に生活していることを考慮し、児童が協力し合って児童ホームの生活を維持していくことができるよう支援している。	A	上級生が下級生の手本となるよう声掛けを行い、お互いが協力し合えるよう支援している。
	(7)	遊びや生活の中で生じる意見の対立やけんかなどについては、お互いの考え方の違いに気付くこと、葛藤の調整や感情の高ぶりを和らげるなどができるよう適切に援助している。	B	児童同士のトラブルの際は、間に入って傾聴し、お互いの考えを伝えるよう支援しているが、双方の考えを聞くための十分な時間が確保できていなかったこともあった。
	(8)	児童間でいじめ等の関係が生じないように配慮するとともに、万一そのような問題が起きたときは早期対応に努め、支援員が協力して適切に対応している。	A	毎日のミーティング等で情報共有を徹底し、児童間のいじめが生じないように配慮している。

※評価記入欄

A (できている)、 B (ほぼできている)、 C (あまりできていない)、
D (全くできていない)、 該当しない場合は「－」

評価項目			評価 (A～D) 記入欄	評価の理由や取組内容等
障がいのある児童への対応	(1)	障がいのある児童の受け入れにあたっては、児童の健康状態、発達の状況、家庭の状況、保護者の意向等を把握している。	A	入所説明の際に、児童に関する聞き取りを行い、児童本人や家庭環境等についても把握するようにしている。
	(2)	継続的な育成支援を行うために、障がいのある児童について児童ホームでの状況や育成支援の内容を記録している。	B	日誌や別冊のノートに育成支援の内容を記録しているが、継続的な育成支援に活用しきれていない場面が認められる。
	(3)	障がいのある児童の育成支援を行うにあたって、研修等を通じて障がいについて理解を深めることに努めている。	B	市主催の研修や県主催の研修等を通じて障がいについての理解を深めることに努めているが、研修受講者数が十分とは言えなかった。
児童への配慮を必要とする児童への対応	(1)	児童虐待の防止等に関する法律に基づき、児童ホームにおける児童の状態や家族の状況の把握により、児童虐待の早期発見に努めている。	A	日々の児童の表情や衣服、着替え時の身体の状態などに注視し、虐待の早期発見に努めている。
保護者との連携	(1)	児童ホームにおける児童の遊びや生活の様子を日常的に保護者に伝え、児童の状況について家庭と児童ホームで情報を共有している。	A	児童の迎えの際に、児童ホームでの生活の様子や出来事を保護者に伝え、共有している。
	(2)	育成支援を通じて保護者との信頼関係を築くことに努めるとともに、保護者が相談しやすい雰囲気づくりを心掛けている。	B	保護者と明るく接するよう心掛け、信頼関係の構築に努めているが、保護者と十分なコミュニケーションの時間を確保できていないホームも散見される。
	(3)	保護者から相談がある場合には、保護者の気持ちを受け止め、相互の信頼関係を基本に保護者の自己決定を尊重して対応している。	A	保護者の気持ちを受け止め、尊重して対応している。
学校と校及び連携地域	(1)	児童の生活の連続性の観点から、児童の生活の様子や注意すべき点等について学校との情報共有を日常的、定期的に行っている。	B	定期的に学校と児童に関する情報共有を実施しているが、日常的には実施できておらず、不十分な点がある。
	(2)	放課後子ども教室を実施している学校については、教室のスタッフと支援員との間で情報交換を行い、教室への参加児童を把握するほか、配慮を必要とする児童の対応や児童の体調面等についての情報共有を図っている。	A	放課後子ども教室のスタッフと出欠について情報共有を行っている。放課後子ども教室でのトラブルや、学校での出来事についても情報共有している。

※評価記入欄

A （できている）、 B （ほぼできている）、 C （あまりできていない）、
D （全くできていない）、 該当しない場合は「－」

評価項目			評価 (A～D) 記入欄	評価の理由や取組内容等
衛生 管理 及 び 安全 対策	(1)	手洗いやうがいを励行する等、日常の衛生管理に努めるとともに、おやつを提供する際には衛生管理及び児童ホームとしての食物アレルギー対応を徹底している。	A	手洗いの励行、アルコール消毒等で日常の衛生管理に努めている。毎日の打合せで食物アレルギーの確認を行っている。
	(2)	日常の遊びや生活の中で起きる事故やケガを防止するために、室内及び屋外の環境の安全性について毎日点検を行っている。	B	定期的に安全点検簿を用いて施設の安全性について確認にしているが、日常点検は不十分
	(3)	児童の年齢や発達の状況に応じ、児童が自らの安全を守るための行動について学習し、習得できるように援助している。	A	定期的に避難訓練や不審者対応訓練を実施し、児童自らが安全を守るための行動について学習するよう支援した。
	(4)	児童ホーム内での感染症の拡大を防ぐような取り組みを行っている。	A	児童の登所までに遊具のアルコール消毒や、室内・トイレの清掃・消毒を実施している。風邪症状の児童に対してマスクの貸与を含めた着用促進を行っている。
職場 倫理 及 び 事業 の 向上	(1)	支援員の言動は児童や保護者に大きな影響を与えるため、仕事を進める上での倫理を常に自覚し、育成支援の内容の向上に努めている。 ※自覚すべき事項 ・児童や保護者の人権に十分配慮するとともに、一人ひとりの人格を尊重している。 ・児童虐待等の児童の心身に有害な影響を与える行為をしていない。 ・国籍、信条又は社会的な身分による差別的な扱いをしていない。 ・守秘義務を遵守している。 ・個人情報を適切に取り扱い、プライバシーを保護している。 ・保護者に誠実に対応し、信頼関係を構築するよう努めている。 ・支援員間で相互に協力し、研鑽を積みながら、育成支援の内容の向上に努めている。 ・児童ホームの社会的責任や公共性を自覚している。	B	職務倫理について常に意識し、育成支援にあたっているが、時として大声や威圧的な言動など、児童の心身に有害な影響を及ぼしうる行為を行ってしまったことがあった。また、支援員相互の協力体制について、毎日のミーティングなどを通じて情報共有を図り、育成支援の内容向上に努めたが、情報共有が十分ではないホームが散見された。
	(2)	児童や保護者等からの要望や苦情に対しては、迅速かつ適切に、誠意を持って対応している。	A	保護者からの意見に対しては、迅速・丁寧な誠意をもって対応している。
	(3)	要望や苦情については、その内容や対応について支援員間で共有することにより、育成支援の内容の向上に生かしている。	A	保護者からの意見は、支援員同士のミーティングで共有することにより、育成支援の向上に努めている。
	(4)	研修等を通じて、放課後児童の育成支援に必要な知識及び技能の習得、維持及び向上に努めている。	B	研修等を通じて、必要な知識及び技能の習得、維持に努めているが、研修参加人数が少なく、改善の余地がある。